



六丁目にお住まいの
杉山 亮太さん・裕子さんの

長女 **衣都** ちゃん (2歳6か月)

次女 **奈環** ちゃん (0歳1か月)

衣都ちゃん、妹の奈環ちゃんが生まれてお姉ちゃんになりました。本当は、ママにもっと甘えたいけど、ちゃんとお姉ちゃんしています。ミルクをあげたり、おむつを替えたり、よしよししたり。二人とも健康で元気に育ってね!!

みなさんのお宅のアイドルの写真を募集しております。市役所総務課へどしどしお寄せください。



近代の

下田の町並み

シリーズ伝建調査

Vol. 5

私たちが昔の下田の町を思い浮かべるとき、それは白と黒のコントラストが美しいなまこ壁の建物や、重厚な伊豆石造りの蔵が建つ風景かもしれません。

このような町並みが完成したのは下田が港町として賑わった明治時代から大正・昭和初期にかけてのことでした。

明治・大正時代の下田

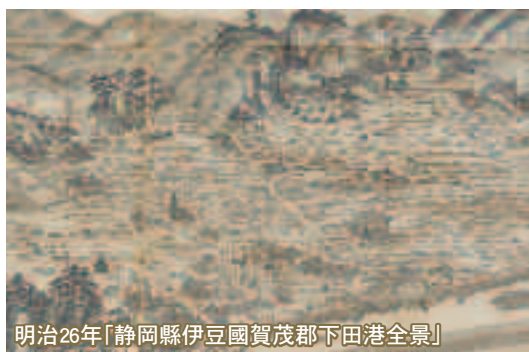
明治維新を迎えた下田町では、江戸時代から続く伝統的な町並みに加え、海運業や造船業の近代化が進んだことにより、河岸に倉庫やドックが造られ、また、街中に銀行や劇場、電力会社が出現するなど変化が現われました。そして、明治22年に東京湾汽船が設立され、近代的な船舶によって下田港と東京が結ばれると、波止場を中心に人と物が盛んに行き交い、下田町は南伊豆

地方の物流拠点として中心的な役割を果たすようになりました。

伊豆石となまこ壁の町並み

伊豆石の生産は江戸時代から続く下田町の地場産業で、特に幕末から明治時代にかけて盛行しました。石の多くは建築土木資材として東京や横浜に船で運ばれましたが、地元での需要も多く、凝灰岩という軟らかい性質を活かし、まるで木材のように加工され建築に利用されたのが大きな特徴です。一方のなまこ壁も

港町という風の強い土地柄を反映し、住宅を火災から守る鎧として広く用いられ、両者によって下田町の独特な景観が形成されました。



明治26年「静岡縣伊豆國賀茂郡下田港全景」

下田において建築物に伊豆石を用い、なまこ壁を施すのは概ね大正時代までですが、現存するこの時代の建物を見ると、極めて堅牢で丁寧に普請されており、激動の明治・大正時代を生きた人々の気概と、港町下田の勢いを感じることができます。



下田港風景(絵葉書) 昭和初期以前

問合せ先 生涯学習課

☎ 5055



「広報しもだ」は再生紙を使用しています



伊豆縦貫自動車道を早期完成しよう!!

「伊豆縦貫自動車道ロゴマーク」を利用して、伊豆縦貫自動車道の整備促進と活性化を県内外にPRしましょう!! ご利用方法については、以下の市ホームページをご覧ください。

■ 下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>